

動物感染症研究・検査施設

1階：コワーキングスペースやリスキリング研修室、プロジェクト研究室)等のイノベーション・コモンス化に資するスペースを整備した



コワーキングスペース



リスキリング研修室

2階：既存の全学共同利用設備と一体で利活用できるよう、遺伝子解析室や受託検査室等のBSL2実験・検査スペースを整備した



遺伝子解析室



受託検査室 (1)

フロンティア科学総合研究センター (遺伝資源分野)

1階トイレの拡充および3階トイレの整備を行い、アメニティ機能の向上を図った



1階男子トイレ



1階女子トイレ

増築に伴う電気容量の増加へ対応するため、電気室を新たに整備した自家発電設備を整備することで、災害・停電時に重要機器への電源供給が可能となる



電気室

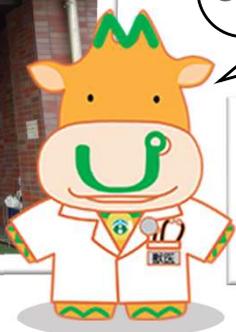


屋外 自家発電設備



新築工事後に学長ラウンドを行ったもう

素晴らしい出来栄で今後の利活用、研究の推進に期待ができるもう



施設の目的

大学の研究力向上に向けて感染症分野の研究を強化/オープンイノベーションを加速するために、動物感染症レジストリを活用した研究活動ができる施設を整備

- スピルオーバー感染症研究
- 動物感染症受託検査に基づく動物由来バイオリポジトリの研究利用

施設の特徴

本施設では、*in vitro*、*in vivo*での感染症研究ができる最新の設備を搭載

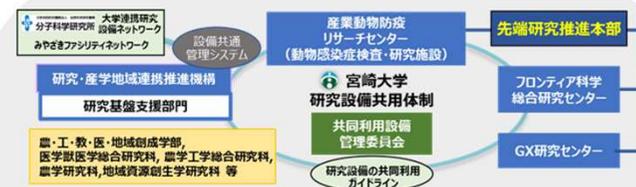
- 病原体取り扱い実験施設
- 企業等とのコラボレーション実験室（ウェット・ラボ）
- 動物感染症受託検査に基づく動物由来バイオリポジトリ

利用のご案内

2025年4月よりコラボレーション実験室の運用開始。今後機器等を整備し、順次利用エリアを拡大。異分野融合・先端的感染症研究を目的とする利用希望者を中心に幅広く受け入れ

- コラボレーション実験室（ウェット・ラボ）の利用
- 動物感染症受託検査および受託試験等の受け入れ
- 先端解析機器を備えた共同利用・共同研究施設として運用

施設活用計画の検討



- 管理体制
 - 産業動物防疫リサーチセンターが管理
- 利用計画
 - 共同利用・共同研究施設として運用
 - 感染症受託検査・受託試験等の実施
 - インキュベーション・ラボを活用した産学連携共同研究の実施
- 収益計画
 - 施設利用料収入
 - 受託検査・試験等による外部資金収入
 - 研究シーズの知財化・社会実装を通じた収益創出

施設の効果向上に向けた取組み

研究ネットワークへの利用拡大・異分野融合共同研究の活性化



- 研究力向上
 - シンポジウム/セミナーの開催
 - 施設を活用した公募型共同研究の実施
 - 若手研究者・研究支援人材の積極的採用
- 経済効果
 - インキュベーション・ラボの活用による、研究シーズや新規技術の実用化促進
 - 全学リサーチ・アドミニストレーター室設置による「知的創造サイクル」の加速化